

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産研究費

事業名 畜産研究所県単試験調査費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

畜産研究所 飛騨牛研究部 電話番号：0577-68-2226

E-mail：c24509@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 13,805 千円 (前年度予算額： 15,635 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	15,635	0	0	0	0	0	10,083	0	5,552
要求額	13,805	0	0	0	0	0	8,651	0	5,154
決定額	13,805	0	0	0	0	0	8,651	0	5,154

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

県内畜産業では、生産者の高齢化・担い手不足、国際情勢による飼料価格や畜産資材の高止まり、畜産環境問題等が課題となっている。こうした課題に対応し、生産性向上や県内畜産ブランド製品の振興を目指すために、生産現場や流通面からのニーズを的確にとらえた研究開発を実施する。

(2) 事業内容

畜産研究所において「家畜の育種改良の推進」、「畜産新技術の開発」、「畜産環境の改善」を目的として、農政部研究課題設定要綱に基づき決定された地域密着型研究課題について以下の試験研究調査を行う。

- ①非分解性蛋白質の早期給与が牛枝肉成績に及ぼす影響
- ②飛騨牛における受精卵でのゲノム育種手法等を活用した効率的な生産技術に関する研究
- ③凍結精液の受胎率予測法の確立
- ④乳用牛未経産牛における効率的な経膈採卵技術の開発研究
- ⑤飼料作物関係除草剤・生育調節剤実用化試験
- ⑥養豚業における抗菌薬の使用量を低減する新たな飼養管理技術の開発
- ⑦抗病性指標の評価を活用した健全養豚実験体系の構築
- ⑧高・低病原性鳥インフルエンザ等の危機管理に対応する遺伝資源保護技術の確立
- ⑨次世代型の豚遺伝資源保存技術の開発
- ⑩飼料用稲の利用拡大に向けた早期刈り取りに関する研究
- ⑪高能力な肉用奥美濃古地鶏原種系群の維持・改良に関する研究
- ⑫鶏舎における防疫向上に関する研究

（３）県負担・補助率の考え方

県畜産業の振興に寄与する調査研究として県単事業として実施する。また、一部は共同研究機関とともに国の競争的資金による受託事業として実施する。

（４）類似事業の有無

なし

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	1,299	研究データ分析のための旅費
需用費	12,091	研究の消耗品費等
役務費	410	研究の通信運搬費
負担金	5	研究に要する負担金
合計	13,805	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和８年３月策定予定）では４つの基本方針「新たな担い手の確保」、「潜在力をフル活用した生産強化」、「新たな流通ルートの開拓、販路拡大」、「安心できる農畜水産業と農村の環境整備」を定めている。これに基づき研究開発・地域支援を実施する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県内の畜産農家又は業界内で問題となっている課題について研究を行い、その成果を普及することにより、県内畜産農家における生産性の向上、ブランド畜産物の振興などに資する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①技術移転の推進		11	11	12	12	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	研究所の基本方針に沿い、外部資金研究を含め飛騨牛研究部3課題、酪農研究部3課題、養豚・養鶏研究部7課題を実施。 ・飛騨牛の育種改良にゲノム育種価を活用し飛騨牛特徴形質の向上を検討し種雄牛造成に活用した。 ・肥育豚の抗病性を高める生産方法や抗菌薬の使用量を低減した飼養管理技術を検討した。
	指標① 目標：13 実績：13 達成率：100%
令和5年度	研究所の基本方針に沿い、外部資金研究を含め飛騨牛研究部3課題、酪農研究部2課題、養豚・養鶏研究部6課題を実施。 ・乳用牛の潜在性疾病の早期発見技術の開発を検討し最終年として成果を取りまとめた ・肥育豚の抗病性を高める生産方法や抗菌薬の使用量を低減した飼養管理技術を検討した。 ・奥美濃古地鶏原種鶏群の育種改良のため雄系原種鶏の開発を検討した。
	指標① 目標：11 実績：11 達成率：100%
令和6年度	研究所の基本方針に沿い、外部資金研究を含め飛騨牛研究部3課題、酪農研究部3課題、養豚・養鶏研究部5課題を実施。 ・一度凍結した精子の形状を評価し、若齢期では不安定であるが、日齢が進むと安定する傾向があることを明らかにした。 ・肥育豚の抗病性を高める生産方法や抗菌薬の使用量を低減した飼養管理技術を検討した。 ・奥美濃古地鶏原種鶏群の育種改良に向け、ゲノム情報を活用し、増体に優れる雄系原種鶏の選抜を行った。
	指標① 目標：11 実績：11 達成率：100%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	畜産をめぐる国際環境の変化、生産基盤の弱体化、消費者ニーズの多様化を受け、県内畜産物のブランド推進、畜産農家経営安定のための技術開発、技術移転を進めていく必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	これまで、開発・確立した技術は、県内畜産振興に寄与する成果を得ている。研究課題ごとに実施期間を定めているため、年度によって指標の達成率が高いことがある。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	試験計画や進捗状況、研究成果について検討を図るとともに、共同研究(国研、大学)の推進等により効率的に研究開発が進められるよう研究体制の効率化を図っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 より効率的に研究成果を上げるための研究体制（共同研究の推進、公募型研究への取組など）を引き続き構築していく必要がある。 研究成果の技術移転と質の高い技術支援が図れるよう、若手研究員等の人材育成に努めると共に、研究員の増員を要求していく。	
---	--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 研修会等での関係者の意見等を踏まえ、必要とされる課題について取り組み、畜産物の生産性向上および県内畜産ブランド製品の更なる振興につなげる。	
--	--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	